opusdei.org

年間第11週・月曜 日 91 恩恵の生活

一新たな命。キリスト信者の 尊厳。一神の本性に与らせ る成聖の恩恵。一恩恵はキ リストとの一致に導く:素直 さ、祈りの生活、十字架を愛 する。

2024/04/28

年間第11週・月曜日

91 恩恵の生活

- 新たな命。キリスト信者の尊厳。

- 一神の本性に与らせる成聖の恩恵。
- 恩恵はキリストとの一致に導く: 素直さ、祈りの生活、十字架を愛する。
- 91. 1 新しい生命。キリスト者の 尊厳

洗礼によって、成聖の恩恵が注がれ た時から、私たちはキリスト者とし て新たな超自然的生命を得ます。私 たちが今得ているものは、キリスト を信じる者だけが所有する特別の生 命です。「血によってではなく、肉 の欲によってではなく、人の欲に よってではなく、神によって生まれ たのである」¹。洗礼で、キリスト 者は、キリストの本当の生命、また は、キリストご自身の生命を生き始 めます²。 イエスと私たちの間に、 人間社会に存在する交わりとは違 う、もっと強い、親密な生命の交わ りを生じるからです。主との一致 は、あまりにも深淵なので、本当に

その最初の結果は、神の子として私 たちが創られたという、他と比べま のにならないほどの祝福に現れまた す。神の子は、単なる称号、まませ は、説明のレッテルして他人と対 ん。人が自分の子として名前と対 にするとます。愛情を注ぐとか生的 とが生るの性格とか生の かつことはできません。人間の 子縁組は必然的に外面的なことだけ です。というのも、人間を他の種の 生物に変えるわけでも、養子になっ た人に何か完全なものを付け加える わけでも、衣服や住居のような外的 な完全性以外のもの、つまり文化な どを向上させる特別の手段を付与す るわけでもありません。しかし、神 の養子縁組は異なります。私たち は、紛れもなく養子にされたもの、 現実的な本質に驚異的な改善を生み 出す、全く新しい生命を獲得するの です。「愛する者たち、わたしたち は、すでに今神の子です」⁵。これ は作り事、ただの言葉の綾(あや)、 または、称号を単に授与するのでは ありません。なぜなら、この霊こそ は、わたしたちが神の子であること を、わたしたちの霊と一緒になって 証ししてくれるからです⁶。 それは あまりにも素晴らしく喜ばしい現実 なので、聖パウロはこう叫びまし た。「従って、あなたがたは、もは や外国人でも寄留者でもなく、聖な

る民に属する者、神の家族である」「これが私たちに与えられた」をい生命を、溢れるほどに生せることが表れるほどの語をと頻繁にそれほど役にこのであると明正されば、といまないます。「キリストトにまけるという。「キリストトには、よっらいまなでは、私たが、ましたが、ましたが、まれば、あなたががらせていたがらせていたがらせていたがらせるためです」。。

このような驚くでき謙遜を考えてないまうな驚くでき・は、私たちの間と心にことにないたことにないたちがらちまって、はいまでで、気にないがらられたがらないで、気にないまでは、でいるでは、尊敬と賞賛すっところでもは、尊敬と賞すったものまり知れない宝を受けている、まない、まないのかがある。

たはこれから受けるように招かれて いる兄弟たちを、どのように眺めているでしょうか。私たちの霊魂に高さいるで価値あるものを本当にのであって価値は、私たちのこれで反映されたちの振舞いに反映細にであっていますが、キリスト者としての状況に出ばない。 でも、キリネにであっていますが、ない海に知いために細心の注意を払っているために細心のために知いた。

9 1. 2 神の本質を分け与える聖化 の恩恵

初めの創造の後、人間が神のみ手から新しく生まれた時は、新しい創造でした。しかし、罪のお陰で人間は老い、内部破壊が起きてしまいました。そこで、神は、新しい被造物を創られたのでした。 成聖の恩恵、神の本質への限られた参加は、被造物であることを止めることなく、人

を神に似た者にし、実際に親密に神 の生命を共有するのです。

この成聖の恩恵は、私たちの霊魂を あらゆる汚れから清める、一種の輝 きと光を生じる内的現実であり、 (霊魂を) 最も美しく、輝かしいも のにします¹⁰。 この恩恵は、最も親 密な愛で私たちの霊魂を神に一致さ せるものです11。次に、その恩恵こ そ最高に素晴らしい善であると確信 して、どのように守るべきでしょう か? 聖書は、その恩恵を神が信仰深 い人々の心に着せた上着12、人の内 面に根を降ろした種13、永遠の生命 に絶えず湧き出す水の源¹⁴にたとえ ています。

成聖の恩恵は、何か特別な活動を 行ったり避けたりするのに役立つ、 助力の恩恵と呼ばれる、衝動や霊感 のような束の間の一時的な賜物では ありません。それは、超自然的生命 の永久の信条で¹⁵、霊魂の本髄に見 出される不変のものと言えます。たとえ、それが大罪で失われる可能性があるとしても、安定した永続するものを生み出すという理由から習慣的恩恵と呼ばれています。

私たちは、この特権とその権利が与 える尊厳を持って、全生活でそれに 準じた生き方と振舞い方をしなけれ ばなりません。恵まれたこれらの賜 物を、一日中片時も忘れてはいけま せん。もし日々の義務を行う只中で、神である御父が私たちに与えられた栄誉を心に留めておくなら、私たちの人生は全く異なっていることでしょう。恩恵のおかげで、私たちは神の子と呼ばれるだけでなく、実に神の子になったのです18。

91. 3 恩恵は、キリストと同化さ せます。従順、祈りの生活、十字架 への愛

わたしは衰えねばならない」19。私 たちの心に、キリスト・イエスと同 じ精神を心の中に持つ望みをもっと 固めてくださいと願わなければなり ません20。 自分の利己主義を根こそ ぎにして、自分のことを考え過ぎな いように、またどのような類の生温 さもすべて心から排除するよう、私 たちを助けてくださいと主に願いま しょう。キリスト者としての誇りを 持つということは、あらゆる徳を最 も完璧に所有している主を模範とし て、黙想しなければならないだけで なく、自分の振舞いに、イエス・キ リストの教えと生活を再現しなけれ ばなりません。他の人々との付き合 い方、その人々の悲しみを自分のこ とのように思いやること、専門職を 完全にするように努力することにお いて、主がなさったように振舞わな ければなりません²¹。 30年間のナザ レにおける隠れた生活を模倣するの です。

このようにして、キリスト者の生活 の中でイエスのご生活が繰り返され ます。それは聖霊の素晴らしい働き によって徐々に主に似ていくことで 実現しますし、主に完全に同化する ことで完成され、ついには天国でキ リストと一致するのです。しかし、 祈りの中で、このことを静かに考え てみましょう。キリストとのこの同 化を成し遂げることは、全生涯の本 当に明確な方針が要求されます。自 分の聖化を主と協力して成し遂げつ つ、聖霊の働きの妨げになるものを 取り去り、常に、神が最も喜ばれる ことを行うよう努めることです。私 たちは、イエスのようにこう言うこ とができるように努めます。「わた しの食べ物とは、わたしをお遣わし になった方のみ旨を行い、その業を 成し遂げることである| 22。

この恩恵との一致は日に日に現実の ものとなっていきますが、主(おも) に次の3つの事項に集約されます。

何よりもまず聖霊の霊感に素直であ ること、霊的指導の下(もと)で決め ている信心の業をすることで、どう いう状況でも常に祈りの生活を保つ こと、そして償いの精神をしっかり と養っていくことです。素直である ことが第一です。聖霊はその勧めに よって私たちの思い・望み・働きに 超自然的な色合いを添えてくださる 御方であるからです。人々にキリス トの教えを深く吸収させ、従わせる ように導く御方、各個人の使命を自 覚させ、神のお望みをすべて果たす ための光をお与えになる御方は聖霊 です²³。 その同じ聖霊は、個人的な 内的成長において、そして、友だ ち、親戚、同僚の間で行わなければ ならない多くの使徒職において、私 たちを助けてくださいます。第二は 祈りの生活です。キリスト信者の温 和、従順、奉献などは愛から出て愛 に向かって進むべきものです。その 愛によって、交わり、語り合い、友 情が生まれます。キリスト信者の生

活は、唯一にして三位なる神との絶 え間ない対話を必要とします。聖霊 のお招きになる親しい交わりとは、 その対話のことであります²⁴。 最後 に十字架との一致を挙げることがで きます。キリストのご生涯において カルワリオがご復活や聖霊降臨に先 行したように、同様の過程がキリス ト信者の各々の生活の中にも再現さ れるべきなのです²⁵。 ですから第一 に、私たちは遭遇する大小の矛盾を 受け入れ、日々たくさんの小さな犠 牲を受け入れ、主に捧げます。そう することで、私たちは自分の生活を 清め、神との深く親しい対話をする ようになり、贖いを共にする思いで 自分を主の十字架と一致させます。

今、祈りを終えるにあたって、次の3つの点でどのように恩恵に一致した態度をとっているか糾明しましょう。恩恵の生活の向上は、この一致によるからです。祈りや神の現存のうちに、また犠牲において、すでに

自分が到達している基準で満足していることは望みません、と主に申し上げます。神の恩恵と聖母のご保護によって、私たちは人生に意味を与えてくださる目標であるイエス・キリストとの完全な一致に達するまでは休みませんから。

2 ガラテア3:27 参照

³ ヨハネ15:1-6

1 ヨハネ1:13

⁴ 1コリント12:27

5 1ヨハネ3:2

6 □-マ8:16

. 1 0

 $_{-}^{7}$ \pm 7 \pm 7 \pm 1 9

8 2ペトロ1:4

- ⁹ 聖トマス,Commentary on Second Epistle to the Corinthians,IV, 192参照 |
- Catechism of the Council of Trent, II 2, 50
- ___ Catechism of the Council of Trent, II 1, 9, 8 参照
- 12 2コリント5:5 参照
- 13 1ヨハネ3:9 参照
- 14 ヨハネ4:14
- Pius XI, Casti connubii, 3 1
 December 1 9 3 0
- ¹⁶ Pius XI, Divini illius Magistri, 3 1 December 1 9 2 9 参照
- ¹⁷ Pius XI, 第 2 バチカン公会議,教 会憲章. 4 0 参照
- 18 1ヨハネ3:1 参照

- ¹⁹ ヨハネ3:30
- 20 フィリピ2:5
- ²¹ Pius XII Mystici Corporis, 2 9 June 1 9 4 3 参照
- 22 ヨハネ4:34
- ²³ 聖ホセマリア・エスクリバー, 『知識の香』, 135
- ²⁴ 聖ホセマリア・エスクリバー, 『知識の香』, 136
- ²⁵ 聖ホセマリア・エスクリバー, 『知識の香』, 137

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-XI-getsu/ (2025/11/28)